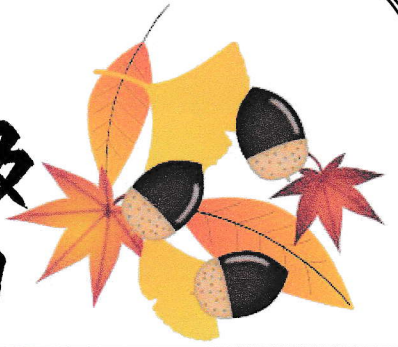




# 徳成寺 寺ともかわら版 第166号 2020年10月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

『なんで』と思うな。『せっかく』と思え。最近出会った

ことばです。五輪女子マラソンメダリスト有森裕子さんが、故小出

義雄監督からかつてかけられたことばです。「また足を故障して走れなく

なった」など相談に行くと、監督は「有森、なんで故障したんだろうと思うな。

せっかく故障したんだから、と思え。物事に意味のないことなんてないんだよ」

人間逆境に陥ると、「なんで？なんで？」とそこから脱け出すことばかり考えて

「せっかく」のチャンスとして頂こうとしません。「なんで」は愚痴、

「せっかく」は智慧。今の状況すら、「せっかく」の機会として

押しいただければ、今までとは違った世界が開かれてきます。

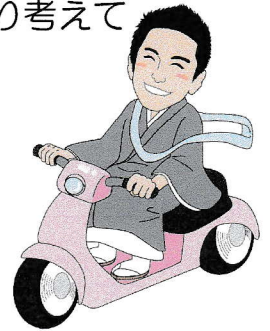
-発行責任者-

住職

大山健児

坊主

大山ひとみ



## 大山超世の耳を澄ませば

いつもお世話になっています、長男です。

お彼岸参りでお世話になったご門徒の皆様、ありがとうございました。夏の暑さも冬の寒さも彼岸までと言いますが、気温差が激しく、身体が追い付かないなと感じます。さて、お寺に帰ってきて4年目に入り、お坊さんの勉強会に参加しはじめました。私は社会問題班と言う部署に所属し、現在はハンセン病について学習しています。ハンセン病は過去のことでありと思われがちなのですが、コロナ禍の初期に見られた自粛警察や県外ナンバーへの冷たい対応などを鑑みると、日本人にとって決して過去のことでないという事を感じます。悲しい歴史を繰り返さないためにも、コロナ禍において私達は予防に関する正しい知識と、差別的な対応をとらないという毅然とした態度が重要になってくると感じました。2020年も後半に差し掛かり、空気が乾燥し気温がどんどん下がります。インフルエンザとコロナ、どちらにも十分注意し、自己と他者をいたわりながらお過ごしください。写真は学習の際に使っている資料集です。

